

# 会社概要

## ■会社概要 (平成30年3月31日現在)

社名 川本産業株式会社  
設立 昭和6年1月  
資本金 883,000,000円  
従業員数 266名(単体、出向・契約・パート・アルバイト除く)

## ■役員 (平成30年6月26日現在)

取締役会長 川本 武司  
※代表取締役社長 水上 博  
※代表取締役副社長 福井 誠也  
※取締役 小澤 徹  
取締役 監査等委員 吉田 直  
取締役 監査等委員(社外) 日 上 俊彦  
取締役 監査等委員(社外) 親 泊 伸明

※印の取締役は、執行役員を兼務しております。

## ■執行役員 (平成30年6月26日現在)

執行役員 二宮 基正  
執行役員 東島 寿  
執行役員 河野 序亮  
執行役員 花村 武之哉  
執行役員 濱村 真  
執行役員 山田 明  
執行役員 内海 博  
執行役員 吉田 康  
執行役員 平井 靖

## ■事業所

- 本社 大阪市中央区谷町二丁目6番4号 谷町ビル
- 支社 東京支社 東京都中央区新川1-24-1 ユニゾ新川永代通りビル8階
- 営業所  
●名古屋営業所 愛知県名古屋市西區城西3-12-12  
●広島営業所 広島県広島市中区白島中町2-2  
●福岡営業所 福岡県福岡市博多区博多駅東3-12-1 アバダンント95 7階
- 工場  
●大阪工場 大阪府泉北郡忠岡町忠岡東3-14-20
- 子会社  
●浙江川本衛生材料有限公司 中国浙江省

## ■株主メモ (平成30年3月31日現在)

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日  
定時株主総会 毎年6月下旬  
単元株式数 100株  
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社  
上場取引所 株式会社東京証券取引所 市場第二部  
証券コード 3604

## ■株式の状況 (平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数……………16,000,000株  
発行済株式の総数……………6,000,000株  
株主数……………1,351名

## ■大株主 (平成30年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エア・ウォーター株式会社	2,903	50.10
川本 武	296	5.11
MSIP CLIENT SECURITIES	282	4.88
株式会社TK	269	4.65
高浜 優	99	1.71
日本ラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	53	0.93
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	50	0.86
株式会社りそな銀行	42	0.73
川本 洋之助	41	0.71
佐々木 愛子	36	0.62

※1. 持株比率は自己株式(204,283株)を控除して計算しております。  
※2. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。



# 第88期報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

## 川本産業株式会社

証券コード 3604



# 川本産業株式会社

〒540-0012 大阪市中央区谷町二丁目6番4号 谷町ビル TEL.06-6943-8951



この報告書は、環境に配慮し、  
植物油インクを使用しています。

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年6月26日の取締役会にて、新たな経営体制を決定いたしました。経営陣一同、気持ちを新たに企業価値向上に努めて参る所存ですので、株主の皆さまには引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長執行役員

水上 博司

### 〈経営体制〉

取締役会長	川本 武	
代表取締役社長執行役員	水上 博司	管理統括
代表取締役副社長執行役員	福井 誠	営業統括
取締役執行役員	小澤 徹也	プロダクトサプライ統括兼購買物流本部本部長兼 浙江川本衛生材料有限公司董事長
取締役（監査等委員）	吉田 直之	
社外取締役（監査等委員）	日上 俊彦	
社外取締役（監査等委員）	親泊 伸明	

## Q 1 第88期(平成30年3月期)の業績はいかがでしたか？

第88期は、全体として業績改善の兆しが見え始めた年度となりました。

連結業績は、売上高232億57百万円、営業利益1億3百万円、経常利益1億32百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1億47百万円となりました。平成29年11月に浙江川本衛生材料有限公司を子会社化したことに伴い、当期より連結決算を開始しております。

個別業績は売上高232億35百万円（前年同期比1.1%増加）、営業利益1億36百万円（同691.0%増加）、経常利益1億64百万円（同395.4%増加）、当期純利益1億79百万円（同93.8%増加）となり、売上高・各利益ともに前期を上回る成果となりました。特に、売上高は直近のピークである第84期（平成26年3月期）から3期連続で減少しておりましたが、底打ちを示すことができたことは重要な事実だと捉えています。利益面では、この数年取り

組んできた収益性向上・生産性向上の施策が数字に表れ始めており、経常利益率が前期比0.4ポイント上昇しました。

財務面では、前期に自己資本比率が25%を回復しましたが、当期も有利子負債の返済を押し進めることにより自己資本比率26.4%と前期比1.2ポイントの改善を実現しました。

## Q 2 中長期の方向性とそれに向けた課題を教えてください。

当社は大きく分けると医療関連・介護関連・育児関連の3つの領域を軸に事業展開をしていますが、これらの領域は社会的な関心が非常に高まっている分野でもあります。「2025年問題」と呼ばれているように、2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になり介護や医療などの社会保障費が急増すると懸念されています。同時に、高齢者を支える人口を増やすための少子化対策・子育て支援も重要度を増しています。また、政府では2042年に高齢者人口がピークに達するとの推計をもとに、2040年を見据えた社会保障のあり方に関しても議論が始まっています。

社会的ニーズが高まっている一方で、他社と差別化できない製品は既に価格競争に陥っており、事業環境は厳しさを増しています。当社は今後も、医療・介護・介護予防・育児といった領域を軸に、常に消費者の立場にたった一歩勝れた特徴をもつ製品・商品を提供することで、価格競争とは一線を引いた立ち位置にポジションを構築していく必要があると考えています。第88期は会社全体の売上は前期から増加しましたが、セグメント別にみるとコンシューマ事業は主要顧客に対する販売が順調に伸長したものの、メディカル事業は減収が止まっています。メディカル事業のなかでも、メーカー機能を強化し、競争力のある製品を届けられるような企画開発・販売促進が課題だと考えています。

## Q 3 第89期(平成31年3月期)の見通しはいかがですか？

当期は、業態（メーカー業・卸売業）に応じた営業活動強化による売上高の着実な拡大を目的として、平成30年4月1日付で営業組織の再編を実施いたしました。これまで、メディカル（医家向け）・コンシューマ（一般家庭向け）という区分で事業管理を実施していましたが、業態別の事業活動のあり方を再構築していきたいと考えています。

## 業績の概況

また、メーカー業を強化する観点から、戦略的な販売促進と製品開発との連携強化を目的としてマーケティング本部を新設し、長年培った医療機器製造における専門知識及びマーケティング力を活用しお客様に必要とされる製品を提供する体制に取り組んでまいります。さらに、これまで以上に効率的で高品質な生産体制を確立するために積極的な投資を図るとともに、品質保証体制の着実な運用を通じてお客様の信頼に応える品質確保に努めてまいります。

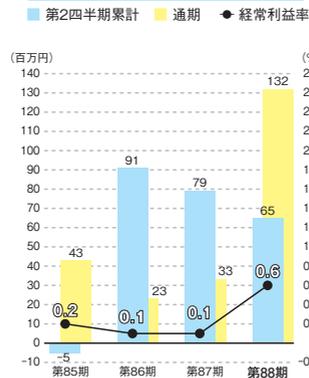
これらの施策に加えて、当社グループが継続的な成長発展を実現するために、M&Aによる収益基盤の強化も視野に取り組んでまいります。

次期（平成31年3月期）の連結業績見通しは、売上高250億円（前年同期比7.5%増加）、営業利益3億20百万円（同209.0%増加）、経常利益3億50百万円（同163.9%増加）、親会社株主に帰属する当期純利益2億40百万円（同62.4%増加）を見込んでおります。

### 売上高



### 経常利益/経常利益率



### 総資産/純資産/自己資本比率



注) 当社は、平成30年3月期より連結財務諸表を作成しているため、第87期までは単体での記載としております。

### 連結貸借対照表

(単位:千円)

	平成30年3月期 (平成30年3月31日現在)	平成29年3月期 (平成29年3月31日現在)
流動資産	11,096,733	11,742,586
固定資産	3,248,969	2,088,952
有形固定資産	1,518,889	1,056,708
無形固定資産	543,563	65,703
投資その他の資産	1,186,515	966,540
<b>資産合計</b>	<b>14,345,703</b>	<b>13,831,539</b>
流動負債	8,601,509	6,090,284
固定負債	1,893,439	4,259,292
<b>負債合計</b>	<b>10,494,948</b>	<b>10,349,576</b>
株主資本	3,299,642	3,151,855
その他の包括利益累計額	467,766	330,107
非支配株主持分	83,345	—
<b>純資産合計</b>	<b>3,850,754</b>	<b>3,481,963</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>14,345,703</b>	<b>13,831,539</b>

### 連結損益計算書

(単位:千円)

	平成30年3月期 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)	平成29年3月期 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)
売上高	23,257,173	22,990,519
売上原価	19,603,400	19,385,881
売上総利益	3,653,772	3,604,638
販売費及び一般管理費	3,550,202	3,587,381
営業利益	103,570	17,256
営業外収益	107,197	93,944
営業外費用	78,135	78,050
経常利益	132,631	33,149
特別利益	63,100	—
特別損失	45,419	35,971
税金等調整前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	150,313	△ 2,821
法人税、住民税及び事業税	37,392	9,446
法人税等調整額	△ 32,779	△ 104,852
当期純利益	145,700	92,583
親会社株主に帰属する当期純利益	147,787	—

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	平成30年3月期 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)	平成29年3月期 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 355,205	499,411
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 912,304	993,840
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 437,960	△ 2,399,483
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,707,959	△ 911,823
現金及び現金同等物の期末残高	507,910	2,215,869

注) 当社は、平成30年3月期より連結財務諸表を作成しているため、平成29年3月期は単体での記載としております。

## X線透過装置での視認性を高めた鏡視下手術用ガーゼ—— GGアブソーテック® プラスを発売しました

### POINT

#### ● ハレーションを低減

緑色に着色しているため、ハレーションが起きにくく、クリアな視界で手術が可能です。

#### ● 優れた操作性

トロカールからの挿入・抜去や体腔内での操作が容易な三角形です。  
また、厚みがあるので臓器を愛護的に圧排できます。

#### ● 吸液時に臓器との判別が容易

緑色に着色しているため、血液を吸液しても臓器との判別が容易です。

#### ● 内径12mm以上のトロカールから挿入・抜去が可能

#### ● X線透過装置で撮影時、判別が容易

従来品よりも視認性が向上しました。

#### ● X線撮影画像



- 発売時期：2017年12月上旬
- 包装数量：S2枚入／S5枚入／M2枚入／M5枚入
- 材質：本体(綿100%)、X線造影糸(ポリプロピレン、  
ポリエステル、硫酸バリウム、青色顔料)
- クラス分類：一般医療機器
- 届出番号：27BX100006553624
- 販売名：GGアブソーテック

#### (※)ハレーション

写真の像で、特に強い光の当たった部分の周りが白くぼやける現象。  
ガーゼのような白色被写体が入ると光量の調整により周囲が突然暗くなり、術野が見えにくくなります。



## 浙江川本衛生材料有限公司を連結子会社化しました

当社の医療用ガーゼの主要調達先として長年にわたり緊密な協力関係を築いてきた浙江川本衛生材料有限公司(中国浙江省)の出資持分90%を平成29年11月に譲り受け、同社を連結子会社としました。同社は、日本向けの医療用ガーゼを製造するだけでなく、中国国内や海外向けに創傷被覆材等の商材を販売しています。

当社では、日本国内向け医療用ガーゼのシェア拡大や中国での製品販売の拡大に向けた基盤と位置付け、両社の関係をより一層強化する取り組みを推進していきます。既に、当社からの駐在員派遣や当社大阪工場から浙江川本衛生材料有限公司へのガーゼ関連生産工程の移管など、シナジー創出に向けた取り組みを開始しております。さらに、中国で今後の需要拡大が見込まれる付加価値の高い医療衛生材料(手術関連製品など)を中国国内にも拡販するなど、当社の海外事業展開のスピードアップにも取り組んでまいります。



## 東京支社が移転しました

平成30年2月13日(火)より、東京支社が東京都江東区東陽から東京都中央区新川へ移転いたしました。

〒104-0033  
東京都中央区新川1-24-1  
ユニゾ新川永代通りビル8階

最寄駅は、東京メトロ有楽町線茅場町駅  
徒歩約10分です。

